

事業名 金山調節池環境整備事業

〔市民との協働による湿地性生態系の創出と管理〕

受賞機関 東京都建設局

北多摩北部建設事務所

事業実施期間 平成11年1月～平成14年3月

事業費 13百万円

事業等の特徴

市民との協働により本格的な生態系保全・復元が実現し、管理についても市民参加型で行われている。将来にわたって日常的に継続していくことにある。協働に参加するセクターがそれぞれ刺激し合うことで成長し、湿地性生態系は管理作業によって一層高い活力を得ることになった。

事業の概要と利用者等の評価

金山調節池は水害対策として、平成6年3月に竣工した。平成8年から湿地性植生が自然に復元し、昆虫や野鳥を含む湿地性生態系としての様相に発展してきた。しかし、平成10年になると、土砂堆積に伴う乾性化と植生の単相化が進み、ペットやゴミ等の投棄による湿地性生態系の攪乱が起きた。一方、こうした調節池の変化に対して、地域住民の間で自然発生的に関心が高まり、日常的な清掃や草刈、植生調査などが自主的に行われるようになった。

東京都では、このような湿地性生態系を保全しようとする活動に対する支援を進めるなかから、調節池管理の新しい手法をめざした。平成11年には、本事業を立ち上げ、「市民との協働」を基本として、生態系の変化に対応した系統的な管理作業を試行した。

平成12年には、地元清瀬市の参加も得て、東京都が主体となり、市民及び地元市との新たな協働関係（ワークシップ）を構築する準備に取りかかった。平成13年には、「金山調節池ワークショップ」が暫定的に発足し、市民世話人が中心となって管理作業計画も決定された。この計画に基づいた管理作業が実施され、市民ボランティアの募集も順調に進んでいる。また、平成13年には、柳や魚類の調査、メダカの放流など新たな試行に加え、市民と協力して過去



全景

3年余りの成果をまとめるパンフレット作成の実現をみた。

- ・この事業により、親水活動の多様化と質的向上が図られた。



第1は、都の調節池管理の新たな手法により、管理作業や調査などへの参加が促され、長年蓄積した知識を実現できるフィールドとなった。第2は、生態系の発展によってバードウォッチングなど多様になった親水活動である。第3は、散策を楽しむ人たちである。

- ・調節池の管理が、即応性を持ち効果的かつ効率的に行われることとなった。第1は、河川管理者として湿地性生態系の管理に必要な技術的な経験と情報の蓄積である。第2は、隣接する柳瀬川の河川環境を向上させた相乗効果と植物のストックヤード機能である。第3は、河川行政の柱である河川環境への配慮及び地域社会との協働という課題のケーススタディとなっている。

審査委員会委員の意見等

- ・計画の中に市民との協働を掲げた点が評価できる。
- ・市民参画、協働型の河川の新しい維持管理手法として注目すべき事例である。また少ない予算ながら随所に工夫がみられる。
- ・時間を要するプロジェクトではあるが、管理を民間とともに協働する等は社会的意義も高い。
- ・市民参加による管理作業計画の作成により生態系の保全が図られていることは評価できる。
- ・コミュニケーションについて、市民グループの特性等について必ずしも十分でないこと、評価についても具体性が欠けるなどの点が惜まれる。